

2025 年 3 月 19 日 全 8 頁

Indicators Update

2025 年 2 月貿易統計

特殊要因で輸出金額が増加したものの、輸出基調の弱さは継続

経済調査部 エコノミスト 秋元 虹輝

[要約]

- 2025 年 2 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+11.4%と 5 カ月連続で増加した。4 カ月連続の前年比円安ドル高で輸出価格が押し上げられたことが主因だが、輸出数量の 1-2 月平均は前年比で小幅な増加にとどまり、中国の春節や為替の影響を差し引いた基調的な輸出の伸びは引き続き鈍い。輸出金額の季節調整値は前月比+4.0%と 2 カ月ぶりに増加した。輸入金額は前年比▲0.7%と 3 カ月ぶりに減少し、季節調整値でも前月比▲4.1%と 3 カ月ぶりに減少した。貿易収支は 5,845 億円と 2 カ月ぶりの黒字となり、季節調整値でも 1,823 億円と 2 カ月ぶりに黒字となった。
- 2025 年 2 月の輸出数量は前月比+6.7%と 2 カ月ぶりに増加した。自動車関連財（自動車、同部分品、原動機等）や半導体関連財（半導体等製造装置、集積回路（IC）等）が輸出全体を押し上げた。輸出数量全体を地域別に見ると、米国向け（同+11.4%）、EU 向け（同+19.8%）、アジア向け（同+3.5%）のいずれも増加した。アジア向けのうち中国向け（同+14.2%）も増加した。
- 先行きの輸出数量は均して見れば横ばい圏で推移するとみている。米中経済の緩やかな減速を主因に輸出全体は伸び悩む見込みだ。当面はシリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復を背景とした半導体関連財の輸出増が期待できるが、同サイクルは 2025 年半ばには頭打ちが予想される。「トランプ関税 2.0」の不確実性にも引き続き注意が必要となる。

【貿易金額】中国の春節や円安の影響を差し引いた基調的な輸出の伸びは鈍い

2025年2月の貿易統計によると、コンセンサス（前年比+12.6%、Bloomberg 調査）は下回ったものの、輸出金額は前年比+11.4%と5カ月連続で増加した（図表1）。税関長公示レートが154.61円/ドル（同+4.3%）と4カ月連続で前年比円安ドル高となり、輸出価格が前年比で上昇したことが主因だ。輸出数量も増加に寄与したが、1-2月平均では同+0.8%と小幅な増加にとどまり、中国の春節休暇のずれ（2024年は2月10日から17日まで、2025年は1月28日から2月4日まで）や為替の影響を差し引いた基調的な輸出の伸びは引き続き鈍い。

輸出金額を地域・品目別に見ると、米国向けの自動車（前年比+13.9%）やアジア向けの半導体等製造装置（同+35.9%）などが大幅に増加した。一方、EU向けの自動車（同▲27.6%）は減少した。輸出金額の季節調整値は前月比+4.0%と2カ月ぶりに増加した（図表2左）。輸出数量（大和総研による季節調整値、以下同）が同+6.7%と増加したことが要因だ。他方、ドル円相場が前月から幾分円高方向に振れたことを背景に、輸出価格は同▲2.5%と2カ月ぶりに低下した。

輸入金額は前年比▲0.7%と3カ月ぶりに減少した。輸入価格は上昇した一方、輸入数量は減少した（図表1）。輸入金額を品目別に見ると、原油及び粗油（同▲12.9%）や石炭（同▲20.3%）が全体を押し下げた。他方、通信機（同+26.9%）は増加した。輸入金額の季節調整値は前月比▲4.1%と3カ月ぶりに減少した。輸入価格が上昇した一方、輸入数量は内需の弱さを反映して減少した（図表2右）。

以上を受け、貿易収支は5,845億円と2カ月ぶりの黒字となった。貿易収支の実勢を示す季節調整値でも1,823億円と2カ月ぶりに黒字に転じた。輸出金額が増加した一方、輸入金額が減少したことで貿易収支は急速に改善した（図表3）。

図表1：貿易統計の概況

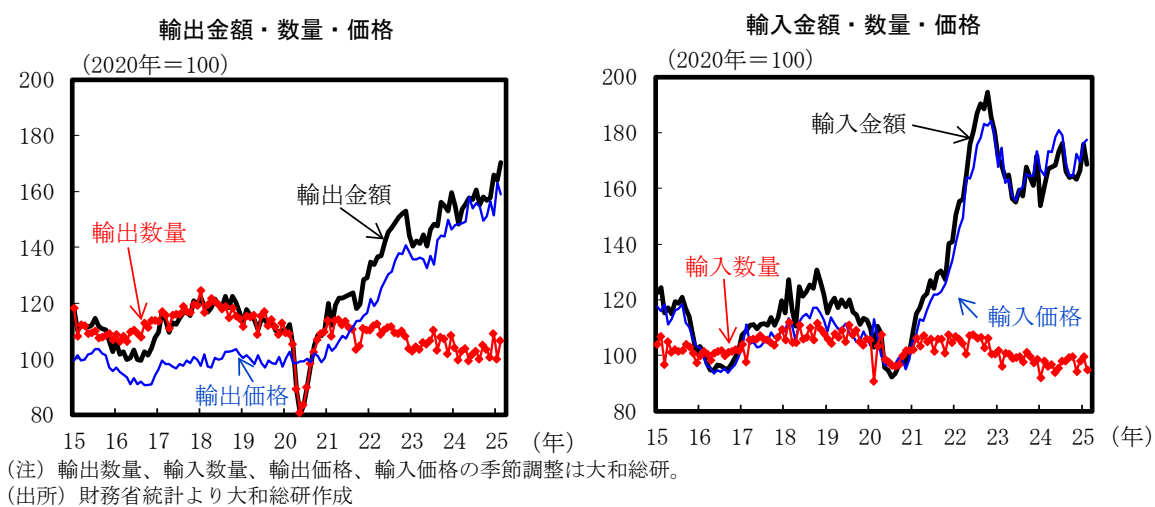
		2024年							2025年	
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
原系列 前年比 %	輸出金額	5.4	10.2	5.5	▲1.8	3.1	3.8	2.7	7.3	11.4
	コンセンサス									12.6
	DIRエコノミスト予想									17.9
	輸入金額	3.2	16.5	2.2	1.9	0.5	▲3.8	1.8	16.2	▲0.7
	輸出数量	▲6.2	▲5.3	▲2.8	▲6.9	0.1	▲0.1	▲2.6	▲1.7	2.9
	輸出価格	12.3	16.3	8.5	5.5	3.0	3.9	5.5	9.1	8.3
	輸入数量	▲9.0	4.4	▲3.8	▲1.4	2.5	▲5.5	1.8	8.5	▲3.9
季節 調整値 前月比 %	輸入価格	13.4	11.6	6.2	3.4	▲1.9	1.9	0.0	7.1	3.3
	貿易収支(億円)	2,213	▲6,283	▲7,114	▲3,061	▲4,723	▲1,155	1,277	▲27,366	5,845
	輸出金額	▲0.5	2.3	▲3.5	1.8	▲0.7	0.7	5.2	▲1.3	4.0
	数量	2.1	1.2	▲2.7	5.1	▲1.6	▲2.8	8.6	▲8.3	6.7
	価格	▲2.6	1.2	▲0.8	▲3.1	0.9	3.6	▲3.1	7.7	▲2.5
	輸入金額	3.1	1.6	▲5.8	▲1.3	0.4	▲0.8	2.1	5.7	▲4.1
	数量	1.6	2.6	0.0	1.3	0.3	▲5.3	3.8	1.6	▲4.7
	価格	1.5	▲1.0	▲5.8	▲2.6	0.1	4.8	▲1.7	4.0	0.6
	貿易収支(億円)	▲8,506	▲7,963	▲5,425	▲2,579	▲3,557	▲2,239	507	▲6,013	1,823
	税関長公示レート	156.64	159.77	150.89	144.27	145.87	152.83	152.48	157.20	154.61

（注1）税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

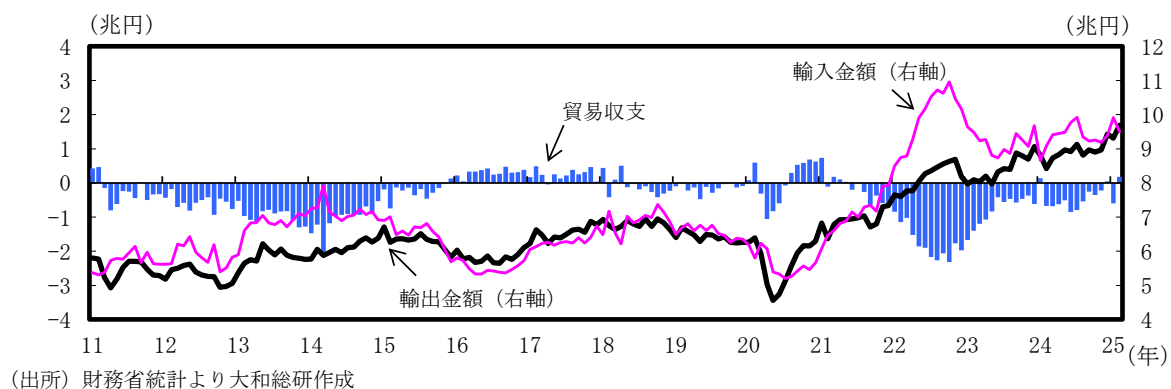
（注2）数量と価格の季節調整値は大和総研による。

（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2 : 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



図表 3 : 輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



【輸出数量】自動車関連財や半導体関連財などの輸出が好調

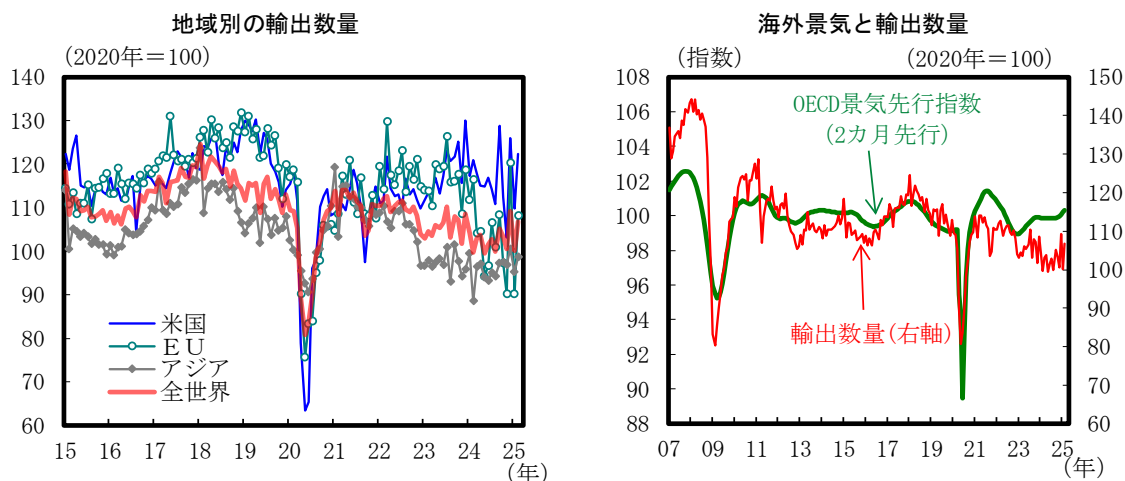
2025年2月の輸出数量は前月比+6.7%と2カ月ぶりに増加した。自動車関連財（自動車、同部分品、原動機等）や半導体関連財（半導体等製造装置、集積回路（IC）等）が輸出全体を押し上げた。輸出数量全体を地域別に見ると、米国向け（同+11.4%）、EU向け（同+19.8%）、アジア向け（同+3.5%）のいずれも増加した。アジア向けのうち中国向け（同+14.2%）も増加した。

米国向けは2カ月ぶりに増加し、乗用車などの自動車関連財の増加が目立った。自動車が好調だった背景として、カリフォルニア州での山火事などにより前月の消費が鈍かった反動や、自動車関税を回避するための駆け込み需要といった特殊要因が影響した可能性がある。輸出の伸びが持続的なものになるか、今後の動向を注意深く見ていく必要がある。

EU向けは2カ月ぶりに増加した。自動車関連財の増加が全体を押し上げたが、同財はこのところ振れが大きく、均して見れば横ばい圏内で推移している。加えて、非鉄金属、プラスチック、電算機類の部分品などの中間財の輸出も好調だった。他方、鉄鋼や半導体関連財は減少した。

アジア向けは2カ月ぶりに増加した。半導体関連財や電算機類の部分品、原動機などアジア向けの主力品目である中間財を中心に増加した。他方、自動車の輸出は減少に転じた。中国向けも2カ月ぶりに増加した。半導体関連財が好調だったほか、プラスチック、鉄鋼、原動機なども増加した。一方、乗用車は減少に転じた。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



【見通し】当面は横ばい圏での推移を見込むも、「トランプ関税 2.0」の激化リスクに警戒

先行きの輸出数量は均して見れば横ばい圏で推移するとみている。米中経済の緩やかな減速を主因に輸出全体は伸び悩む見込みだ。当面はシリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復を背景とした半導体関連財の輸出増が期待できるが、同サイクルは 2025 年半ばには頭打ちが予想される。米国の通商政策（以下、「トランプ関税 2.0」）の不確実性にも引き続き注意が必要となる。

米トランプ政権は誕生後 50 日程度の間、中国に対して合計 20%の追加関税措置、カナダ・メキシコに対して 25%¹の関税措置、全世界からの鉄鋼・アルミニウム製品に対して 25%の関税措置を実施した。さらに、品目別追加関税（自動車、半導体など）や相互関税²などの導入に向けた準備も進められている。仮に「トランプ関税 2.0」が一層激化すれば、外需が縮小して日本からの輸出が押し下げられることが予想される。追加関税措置の対象範囲によっては、日本からの代替輸出³が進む可能性もあるが、米国内への生産移管が進展するにつれてこうした効果は逡減していく可能性がある。

輸出数量の先行きを地域別に見ると、米国向けは横ばい圏で推移するとみられる。2025 年 2 月の小売売上高（季節調整値、米国商務省）は前月比+0.2%と個人消費の弱含みを示唆する結果となった。「トランプ関税 2.0」に加え、移民政策や連邦政府職員の人員削減を含む各種政策の副作用で米国経済の悪化が進めば、日本からの輸出にも下押し圧力がかかるとみられる。また、インフレの再燃により引き締め的な金融環境が長期化し、設備投資や住宅投資が抑制されれば、日本からの資本財輸出が伸び悩む可能性もある。

欧州向けは緩やかに持ち直すとみられる。欧州経済は依然として製造業の低迷が続くものの、2025 年 2 月のユーロ圏景況感指数（総合、欧州委員会）が前月差+1.0pt と 2 カ月連続で上昇するなど景況改善の兆しもみられる。先行きは、インフレ鈍化や ECB の利下げを背景とした個人消費の拡大が日本からの輸出を下支えしよう。一方で、「トランプ関税 2.0」による輸出の下振れや、それに対する報復関税に伴うインフレの再燃が進めば、日本からの輸出は伸び悩むとみられる。

中国向けは横ばい圏で推移するとみられる。2025 年 2 月の製造業 PMI（中国国家統計局）は 50.2 と 2 カ月ぶりに景況拡大・縮小の分かれ目となる 50 を上回った。非製造業 PMI（同）も上昇したが、均してみれば両指数とも中立（50）近辺での動きが続く。先行きについては、設備更新・耐久財消費促進策の継続による内需の下支えと、「トランプ関税 2.0」を受けた中間財・資本財需要の下押しが相殺する中、日本からの輸出は当面足踏み状態が続くとみられる。

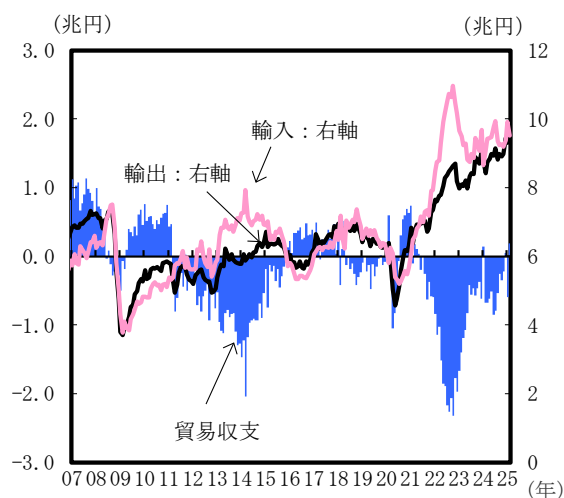
¹ 例外的措置として、カナダからのエネルギー関連製品への関税率は 10%とされた。また、カナダ・メキシコからの USMCA に準拠した輸入品に関しては 2025 年 4 月 2 日まで関税措置の適用を停止された。

² トランプ政権の相互関税が日本経済に与える影響については、久後翔太郎・矢作大祐「[「トランプ政権による『相互+VAT』関税が日本経済に与える影響と金融政策への示唆」](#)（大和総研レポート、2025 年 3 月 11 日）を参照。

³ 関税措置の対象が広範な品目に及んだり、ドイツや韓国などの競合国に拡大したりした場合には、日本が代替需要を取り込む可能性もある。詳細は、岸川和馬・秋元虹輝「[「トランプ関税で日本経済は『漁夫の利』を得られるか？」](#)（大和総研レポート、2025 年 3 月 3 日）を参照。

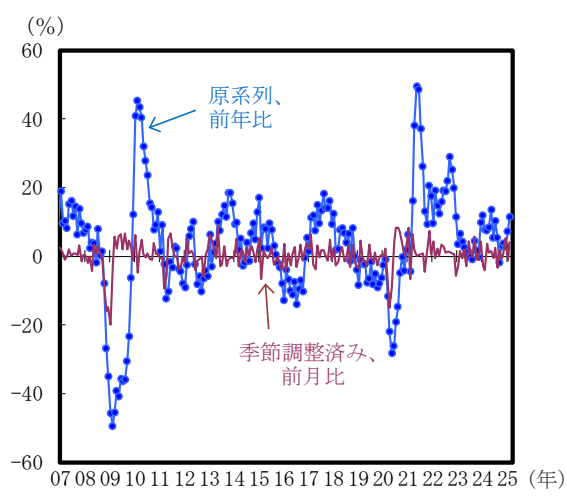
概況

輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）

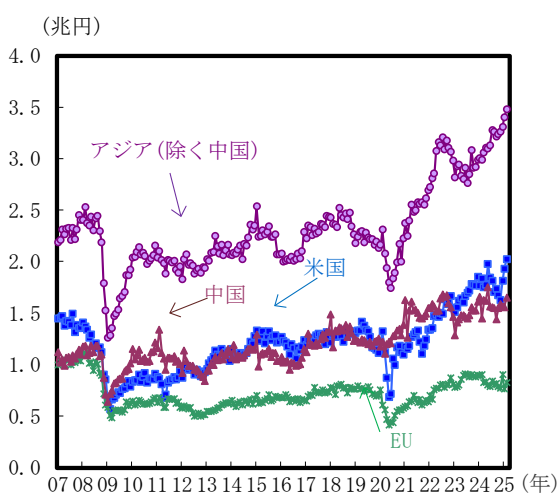


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率（名目）



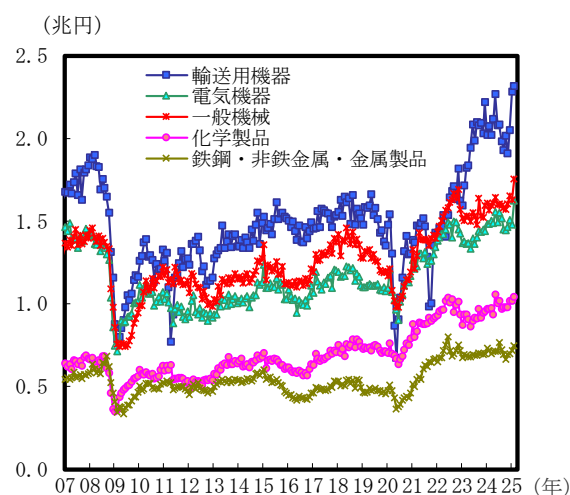
主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）



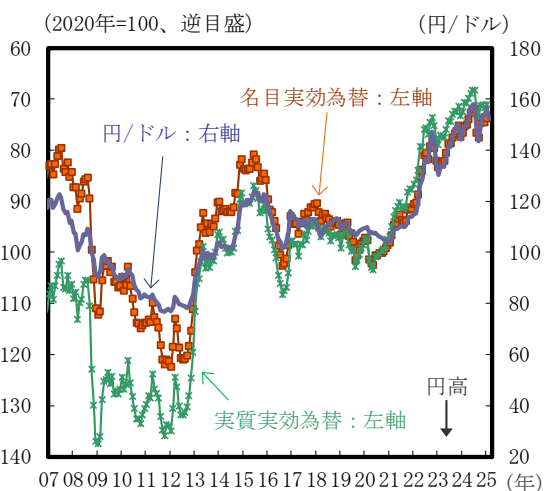
(注) 季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

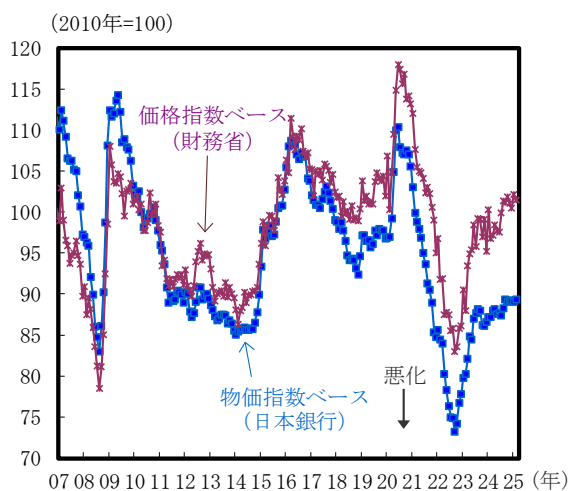
主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。輸出入価格指数の直近値は大和総研による試算値。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲1.8	3.1	3.8	2.7	7.3	11.4	100.0	11.4
食料品	10.9	14.2	21.5	27.6	13.0	24.9	1.1	0.3
原料品	▲10.7	▲0.5	9.5	2.5	10.6	3.3	1.7	0.1
鉱物性燃料	▲50.3	▲39.5	▲11.9	▲0.0	15.4	4.5	1.2	0.1
化学製品	1.2	6.3	3.5	6.1	5.2	7.5	10.9	0.9
原料別製品	▲0.3	▲2.8	1.0	0.3	▲0.9	6.2	10.9	0.7
鉄鋼	▲5.7	▲12.2	▲8.2	0.3	▲4.1	▲1.8	3.8	▲0.1
非鉄金属	4.0	7.2	14.7	▲1.4	1.8	15.4	2.6	0.4
金属製品	1.2	▲4.1	1.7	3.3	▲1.4	5.0	1.3	0.1
一般機械	▲3.3	2.2	5.1	3.7	0.8	11.6	18.3	2.1
電気機器	0.8	0.4	1.0	4.7	▲0.6	9.7	16.0	1.6
半導体等電子部品	10.1	1.6	▲2.3	6.5	2.2	10.9	5.3	0.6
I C	19.3	2.7	▲3.4	8.8	0.2	7.1	3.8	0.3
映像機器	▲7.2	▲3.5	▲0.8	▲9.2	▲3.5			
映像記録・再生機器	▲8.7	8.6	9.6	▲2.5	19.3	0.9	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲20.0	▲8.9	▲21.1	▲16.2	▲10.0	▲7.0	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	▲8.5	▲2.4	3.5	0.8	5.2	12.9	2.0	0.3
輸送用機器	▲7.5	▲4.4	▲6.0	▲7.6	12.0	11.7	23.2	2.7
自動車	▲9.2	▲0.9	▲5.2	▲5.9	10.5	13.4	17.1	2.2
自動車の部分品	▲14.0	▲12.2	▲6.5	▲2.9	▲8.8	2.0	3.6	0.1
その他	9.5	27.2	23.2	14.7	22.1	19.9	16.6	3.1
科学光学機器	4.8	11.8	6.9	5.0	4.0	14.0	2.6	0.4

米国向け輸出金額 内訳								
	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲2.4	▲6.2	▲8.0	▲2.1	8.1	10.5	100.0	10.5
食料品	18.6	11.1	28.7	39.5	24.0	32.4	1.2	0.3
原料品	▲12.6	▲3.2	2.7	14.5	4.3	2.2	0.4	0.0
鉱物性燃料	▲87.7	▲88.5	11.7	70.6	▲86.8	16.1	0.1	0.0
化学製品	▲7.4	30.0	▲22.5	▲17.8	▲3.4	▲1.9	6.7	▲0.1
原料別製品	1.7	▲18.8	▲6.7	▲0.7	▲5.9	13.3	6.6	0.9
鉄鋼	14.8	▲25.6	8.1	0.6	▲12.8	3.9	1.3	0.1
非鉄金属	3.6	▲27.3	3.2	▲0.8	0.2	46.9	1.0	0.4
金属製品	3.6	▲22.1	▲9.3	2.6	4.9	2.0	1.4	0.0
一般機械	▲4.7	▲10.2	▲3.0	▲0.9	▲0.6	3.1	21.6	0.7
電気機器	4.1	0.3	3.6	16.2	8.8	11.7	13.3	1.5
半導体等電子部品	▲5.1	2.4	▲5.3	13.8	19.0	2.6	1.1	0.0
I C	2.7	▲0.1	▲5.0	9.5	5.4	▲2.8	0.5	▲0.0
映像機器	▲20.0	▲9.6	▲5.1	▲9.5	21.3			
映像記録・再生機器	▲16.2	▲2.8	▲11.5	▲11.6	11.5	▲7.7	0.4	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲5.3	▲21.5	▲34.6	▲32.4	▲18.5	▲9.4	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	▲10.7	▲9.1	4.7	13.4	9.8	15.0	1.3	0.2
輸送用機器	▲15.2	▲13.1	▲15.1	▲7.8	12.6	10.0	36.5	3.7
自動車	▲18.9	▲10.1	▲15.4	▲6.8	21.8	13.9	29.0	3.9
自動車の部分品	2.3	▲16.5	▲5.3	▲2.6	▲13.4	0.9	5.8	0.1
その他	45.1	7.1	1.0	0.6	32.6	30.8	13.6	3.5
科学光学機器	5.5	17.3	14.2	▲5.8	21.7	27.1	3.2	0.7

EU向け輸出金額 内訳								
	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲9.0	▲11.3	▲12.5	0.5	▲15.0	▲7.7	100.0	▲7.7
食料品	36.3	28.7	11.7	36.4	15.8	5.6	0.8	0.0
原料品	44.7	32.8	28.1	73.7	▲20.7	▲12.7	1.1	▲0.1
鉱物性燃料	▲28.7	▲76.3	▲49.7	▲84.9	▲24.9	▲2.8	0.0	▲0.0
化学製品	2.3	4.8	16.2	11.5	0.4	▲8.4	11.5	▲1.0
原料別製品	▲12.5	▲20.3	▲17.3	▲2.6	▲16.6	▲9.4	7.6	▲0.7
鉄鋼	▲43.9	▲44.7	▲49.6	▲37.9	▲34.6	▲30.4	1.5	▲0.6
非鉄金属	▲11.3	▲13.4	17.6	29.6	3.4	4.8	1.1	0.0
金属製品	▲9.1	▲1.2	▲4.8	8.7	▲16.1	▲8.3	1.4	▲0.1
一般機械	▲21.6	▲24.4	▲15.2	6.2	▲20.1	▲11.0	19.0	▲2.2
電気機器	▲9.8	▲3.6	▲7.6	0.5	▲7.5	▲3.7	16.3	▲0.6
半導体等電子部品	▲16.0	▲10.1	▲8.0	▲23.8	▲2.6	▲1.5	2.1	▲0.0
I C	▲29.7	▲35.1	▲25.5	▲40.4	▲9.6	▲13.9	0.6	▲0.1
映像機器	▲13.5	4.9	7.5	8.1	19.3			
映像記録・再生機器	▲9.8	7.1	16.3	12.9	14.7	▲4.0	0.7	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲11.2	0.8	▲2.3	▲18.3	▲5.6	▲15.4	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	▲16.4	▲16.0	▲10.6	▲11.5	▲7.9	▲6.6	1.5	▲0.1
輸送用機器	▲7.7	▲22.6	▲31.7	▲11.2	▲29.3	▲13.9	27.6	▲4.1
自動車	2.5	▲18.8	▲33.9	▲19.3	▲31.9	▲27.6	17.0	▲6.0
自動車の部分品	▲29.0	▲25.0	▲17.3	▲13.7	▲41.5	▲6.5	4.5	▲0.3
その他	▲3.3	17.7	12.7	8.0	3.7	6.7	16.1	0.9
科学光学機器	▲5.8	4.7	12.0	4.9	▲13.4	7.8	5.0	0.3

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.3	7.6	8.9	5.7	6.3	15.7	100.0	15.7
食料品	8.0	12.9	20.5	19.1	2.8	23.7	1.3	0.3
原料品	▲14.8	▲2.9	7.1	▲3.7	12.8	6.0	2.6	0.2
鉱物性燃料	▲30.9	▲11.2	▲7.5	25.9	29.7	38.9	1.9	0.6
化学製品	1.3	1.0	7.1	7.6	2.6	10.9	14.4	1.6
原料別製品	2.8	1.3	3.7	▲0.6	▲2.0	4.3	13.3	0.6
鉄鋼	▲0.0	▲9.0	▲7.7	0.5	▲7.7	▲6.1	4.6	▲0.3
非鉄金属	6.4	11.0	15.6	▲2.2	3.0	9.7	4.0	0.4
金属製品	1.3	2.1	3.0	▲2.8	▲5.4	8.3	1.3	0.1
一般機械	4.4	17.9	14.5	5.2	4.7	23.9	19.0	4.2
電気機器	1.9	1.1	1.9	2.8	▲1.2	13.8	20.2	2.8
半導体等電子部品	12.6	1.9	▲2.1	7.4	1.2	12.2	9.0	1.1
I C	21.2	3.4	▲2.9	10.0	0.3	8.1	6.8	0.6
映像機器	▲7.4	▲7.2	▲5.2	▲19.6	▲10.9			
映像記録・再生機器	0.1	13.9	23.4	▲9.8	31.3	10.4	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲20.0	▲4.4	▲19.0	▲13.7	▲10.5	1.0	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲7.0	1.8	6.2	0.9	5.9	18.3	2.7	0.5
輸送用機器	▲15.7	▲4.7	▲6.0	1.6	22.4	16.5	7.9	1.3
自動車	▲17.3	▲9.9	▲5.2	▲0.6	14.9	26.2	4.9	1.2
自動車の部分品	▲22.5	▲10.1	▲8.3	▲6.0	2.7	3.6	2.1	0.1
その他	4.3	27.7	26.8	13.5	16.1	21.7	19.4	4.0
科学光学機器	7.6	12.4	1.6	9.2	4.0	11.6	2.5	0.3

中国向け輸出金額 内訳								
	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	2025/01	2025/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲7.3	1.4	4.1	▲3.2	▲6.1	14.1	100.0	14.1
食料品	▲3.4	21.7	28.6	15.1	14.9	43.6	0.6	0.2
原料品	▲28.4	0.5	6.3	▲18.0	16.2	27.2	3.5	0.8
鉱物性燃料	▲65.6	▲21.5	▲3.2	▲29.8	26.1	40.3	1.2	0.4
化学製品	▲0.9	▲1.6	9.6	10.6	▲2.9	20.0	19.3	3.7
原料別製品	▲4.4	▲1.2	6.5	▲4.0	▲8.1	13.1	11.5	1.5
鉄鋼	▲10.4	▲7.6	▲12.1	▲11.4	▲20.3	▲0.2	2.6	▲0.0
非鉄金属	▲1.4	3.3	22.1	2.8	3.5	15.8	4.2	0.7
金属製品	▲3.7	▲10.0	4.4	▲8.5	▲11.2	13.0	1.5	0.2
一般機械	1.8	8.9	2.2	▲9.7	▲14.4	2.9	23.6	0.8
電気機器	▲4.8	▲0.5	6.2	▲3.6	▲12.5	10.1	20.0	2.1
半導体等電子部品	3.2	6.1	8.2	6.4	▲13.6	▲2.6	6.1	▲0.2
I C	8.8	12.2	14.5	11.3	▲12.4	▲9.8	4.1	▲0.5
映像機器	6.2	▲0.4	12.7	▲3.4	▲2.7			
映像記録・再生機器	20.1	15.6	70.0	▲20.0	174.6	20.1	0.5	0.1
音響・映像機器の部分品	▲11.9	11.7	21.9	20.3	5.8	64.7	0.2	0.1
電気回路等の機器	▲8.9	4.7	5.7	▲3.7	8.3	27.6	3.4	0.8
輸送用機器	▲35.5	▲29.4	▲26.4	▲16.8	6.6	3.9	6.4	0.3
自動車	▲40.3	▲34.0	▲33.0	▲18.6	2.8	0.6	4.1	0.0
自動車の部分品	▲28.6	▲22.7	▲14.6	▲10.1	6.0	6.2	1.9	0.1
その他	▲1.2	25.3	19.3	9.4	▲2.0	37.2	13.9	4.3
科学光学機器	6.5	9.9	6.7	14.7	▲11.0	11.8	3.4	0.4

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成